



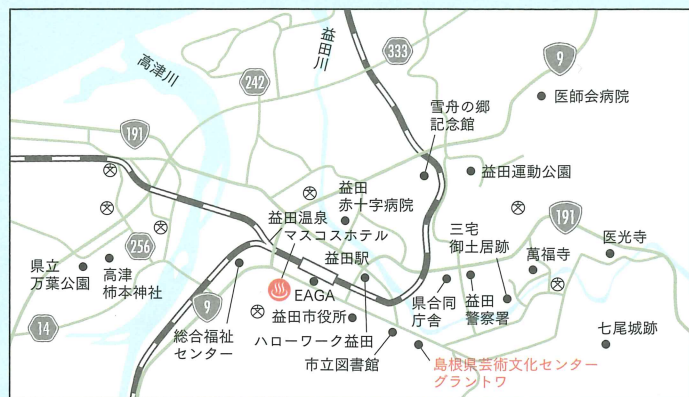
又ひとが育つまち益田

Masuda Life

発行元 / 益田市役所 人口拡大課
〒698-8650 鳥根県益田市常盤町1番1号
TEL:0856-31-0173
E-mail:teiju@city.masuda.lg.jp

又
ひとが
育つ
まち
益田

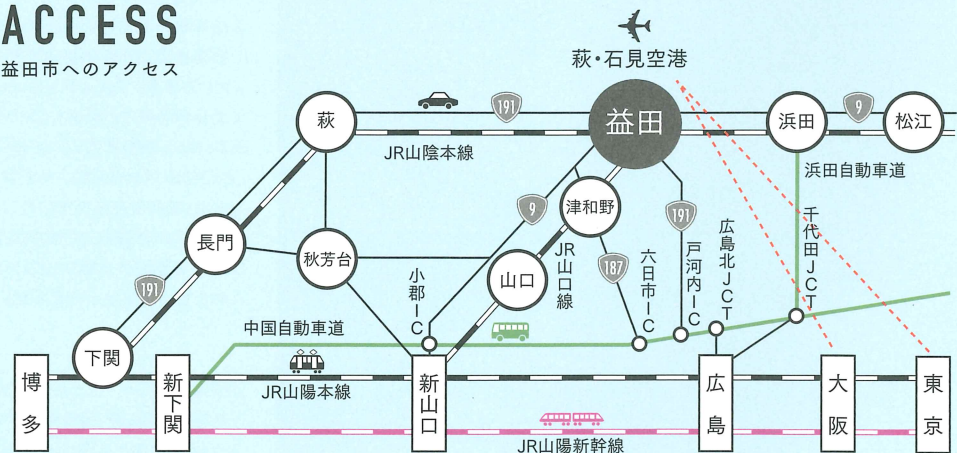
MASUDA



余暇時間
全国1位(鳥根県)
※出典:2011
総務省[社会生活基本調査]

ACCESS

益田市へのアクセス



飛行機
萩・石見空港
(益田駅までバスで10分)
・羽田空港から……………1時間30分

自動車
浜田ICまたは、戸河内IC 経由
・東京から……………11時間
・大阪から……………5時間30分
・広島から……………2時間

新山口駅まで新幹線→山口線の特急
・[東京]から……………8時間
・[新大阪]から……………5時間
・[広島]から……………2時間30分

高速バス
夜行バス
・[大阪]から……………7時間
・[広島]から……………2時間45分
・[大阪]から……………8時間

清流 高津川の水質
全国1位(益田市)
※出典:2010,2011,2012,2013年
国土交通省[水質調査]

あなたは、どう生きていますか。

益田暮らしのコンセプトは、“ダイバーシティ=多様性”です。

豊かな自然環境に支えられて、多様な“暮らす場”を選ぶことができます。
空港・商業・娯楽施設が立ち並ぶ都市部、オーシャンブルーが広がる日本海に面した港町、
清流日本一を誇る高津川の恵みにあずかる農村集落、中国山地の広大な自然に囲まれた山村。
あなたは、どこで暮らしたいですか。

終業時間が、全国でもトップクラスに早い鳥根県だからこそ、いろんな時間を持つことができます。
仕事の時間、家庭での時間、つながりを大切にした地域での時間、
神楽などの伝統芸能に勤む時間、家庭菜園や釣りなど趣味に没頭する時間。
あなたは、どんな毎日をご過ごしたいですか。

あなたのライフスタイルに合わせて、多様な“暮らす場”と“生き方”に満ちた
益田暮らしをデザインしてみませんか。



ABOUT MASUDA

※2020年4月1日現在

[位置] 鳥根県の西端にあって山口県と接しており、北は日本海を臨み、南は中国山地に至る、山陰と山陽を結ぶ交通の要衝地です。

[地勢] 本市の北部は日本海に面し、海岸は白砂青松の石見潟を形成しています。南部は中国山地に至り、恐羅漢山、安蔵寺山などの山々が連なっています。また、中国山地に源を発する一級河川高津川及び益田川が主要河川となり、日本海に注いでおり、下流部には益田平野が三角州状に広がっています。面積733.19平方キロメートルで、鳥根県の総面積6708.27平方キロメートルの約1割を占め、総面積の大半を林野が占めています。特に、美都地域、匹見地域では、9割近くを山林が占め、急峻な山々に囲まれています。

[気候] 平均気温は15~16度で、年間の降雨量は1,500mm~1,700mm程度となっています。積雪については、平野部は対馬海流の影響を受け温暖で少なく、山間部でも近年は暖冬の傾向があり、降雪量も少なくなっています。

[人口] 総人口45,885人、65才以上17,363人、高齢化率37.8%、18才未満7,108人、世帯数21,273世帯

[施設数] 31保育園(うち6園は認定こども園)、3幼稚園、15小学校、16放課後児童クラブ、10中学校、4高等学校、その他3専門学校等

TOURISTS SPOTS



益田市の魅力は
色彩の豊かさ

石州瓦の赤瓦が特徴的な赤色。山々が連なる中国山地の緑色。
オーシャンブルーの日本海、日本海へと続く高津川の青色。
暗闇に飛び交うホタルの黄色。夜空に浮ぶ満点の星空の白色。
色彩の豊かさは、益田のひとの心の優しさ。
益田のひとの心の優しさこそ、益田市の魅力。

① 衣毘須神社

昭和を代表する日本絵画の巨匠・東山魁夷が宮内庁から障壁画の依頼を受けた際にモデルにした場所です。(障壁画「朝明けの潮」) 碧く美しい海に囲まれ、白い砂浜でつながる「宮ヶ島 衣毘須神社」への参道は、潮の満ち引きにより刻々と姿を変えます。さらに、大潮の時には参道が消え、島へ渡れなくなることから『山陰のモンサンミッシェル』とも呼ばれています。

③ 三谷のゲンジボタル

毎年5月下旬から6月下旬にかけて町内各地でほたるの乱舞が観賞できるため、シーズンには、市内をはじめ、県内外から多くの方が観賞に訪れています。毎年ほたるを見ることができるのは、日頃から、ほたるの生息時期を避けての草刈りや、農業集落排水施設の設備等による河川浄化活動など、地域住民が一丸となって環境保全活動に取り組んでこられた努力の賜物と言えます。

⑤ 匹見峡

前匹見、奥匹見、表匹見・裏匹見と4つのエリアに分けて異なる景観を楽しめる匹見峡。4つの匹見峡の入り口となる前匹見は、国道488号線沿い匹見川中流域から約1kmにわたる渓谷で、天狗岩などといった奇岩が見ることができます。奥匹見は駐車場から1.1kmの渓谷で、最奥部にある落差53mの「大竜頭」の滝は圧巻。

② 蟠竜湖

海風に吹き寄せられた砂丘が隆起し、海岸の谷がせきとめられた堰塞湖といわれています。その発生については、長者伝説などが伝わり、多くの謎を秘めています。その名は、竜がわだかまった形に似ていることからつけられました。上の湖(周囲4km、面積8.3ha)と下の湖(周囲2.1km、面積3.5ha)にわかれた淡水湖で、水深は10m以上あります。生息する魚類はコイ、フナ、ウナギ、ナマズなど。

④ 高津川

国土交通省の水質調査で何度も日本一に選ばれている、益田市の象徴。日本で唯一ダムのない一級河川としても有名です。この日本一の清流の恵みを受ける食材は、まさに味も日本一に匹敵するほど。高津川流域のブランド品でもある「鮎」は、全国から釣りファンが集まるほどの人気。また、河口付近で収穫される「大ハマグリ」は厳しい自主規制によりもたらされる逸品です。

⑥ 鳥根県芸術文化センター「グラントワ」

全国でも珍しい、美術館と劇場が一体となった建物です。フランス語で「大きな屋根」を意味し、施設の愛称にもなっている「グラントワ」の名の通り、大きく広がる屋根だけではなく壁一面にも地元の石州瓦が敷かれています。また、石州瓦特有のガラス質の表面が光彩を放つことにより見る角度や時間帯によって建物の印象が変わるため、まさに建物全体が1つの芸術となっています。



①



③



⑤



②



④



⑥

ひとが育つまち益田を目指します。

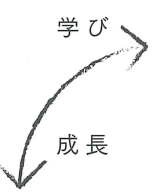
MASUDA



益田市の人口減少の大きな原因のひとつに、若者の就職や進学による人口流出があげられます。若者がUターンし、定着したくなるような魅力的な地域づくり、子育て環境の整備働く場の確保とともに、益田で働きたい、起業したい、地域を元気にしたいという意欲ある若者を増やし産業・地域の担い手として育成していくことが必要です。そこで、行政だけでなく、教育機関、地域、企業、民間団体などが丸となって、より効果的に「ひとづくり」を進めるため、2016年3月に策定した「ひとづくり協働構想」に基づき「ひとが育つまち益田」に向けて取り組んでいます。

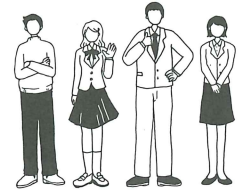


- 安心して子育てできる益田の実現
- Uターンの推進
- 地域の活性化



1. “未来”の担い手

対話をおして生き方や価値観を学ぶライフキャリア教育、ふるさと教育や地域づくり活動への参画機会の創出などを進めることにより、自分の可能性を広げることが出来る未来の担い手を育成します。



- 益田に帰って就職する学生の増加
- 若者の企業の増加
- コミュニティビジネスの創業



ひとづくりの環



協働・学び

学校・地域・行政・NPO・企業

2. “地域”の担い手

地域の人と協力し、地域を支える地域づくりのリーダー、地域の資源を活かして地域の魅力を高めることができる地域の担い手を育成します。



- 幼児期から高校生までを対象に、ライフキャリア教育によるふるさとを学ぶ場や地域活動に参画する機会の創出を推進し、未来の担い手を育成します。
- 育った人材が大人となり、産業振興をはじめとした地域の課題を解決していく地域の担い手、あるいは地域資源を活用し地元の産業を支える担い手となって、地域の活力を維持していきます。
- さらに、この担い手が、今度は次世代のロールモデルや指導者となって新たな人材育成に関わっていくとともに、自らも学んでいくという「ひとづくりの環(わ)」を作り、持続可能な人材育成サイクルを作り上げます。

3. “しごと”の担い手

地元の産業を知り、しごとを体験する機会をつくり、将来地元で頑張りたいという気持ちを持った若者を増やすとともに、しごとを継続発展させるひと、しごとをつくりだせる担い手を育成します。



ひとが育つまち益田についてはこちら▲

1. “未来”の担い手

ライフキャリア教育で未来をつくる

時代とともに、私たちの環境は変わり、状況も変わります。昔の大人たちでは想像できなかった未来が現在あり、私たちが見ることができない未来を子どもたちは生きていきます。そうした中で、価値観も変化をしていきますし、職業そのものの種類やあり方も変わっていくでしょう。こうした変化に臆することなく自分の人生を能動的に生きていくことができる力を育むのが「ライフキャリア教育」です。益田市はいまワークキャリアも包含した「ライフキャリア教育」をすすめています。

益田版カタリ場

1対1の対話を通し「これまでの人生と、これからどうありたいか」自分自身の生き方について考えることで、自分の「心に火を灯す」授業です。益田版カタリ場の特徴は、地域の大人との対話です。通常カタリ場は大学生×高校生が対話を通してこれから自分はどうありたいかを考えます。しかし、大学がない益田市だからこそ地域のかっこいい大人たちこそが、益田市の高校生のロールモデルとなっています。

新・職場体験

仕事を体験することがメインではなく、日々生き生きと過ごす「益田のひと」の生き方や多様な価値観に触れ、自分自身の生き方を考えるプログラムです。「普段どんなことを大切にひと・もの・ことに接しているのか」など、大人のひととなりに触れることにより、自分はプログラムを通してどんな「ひと」になりたいかといったことを考える機会です。

2. “地域”の担い手

てれえぐれえ

※石見井で“いい加減”の意



ひら山のふもとカフェtele-glue(てれえぐれえ)は、子どもからお年寄りまで気軽に集える厨房付きの「チャレンジカフェ・サロン」です。保健所の許可を取得しているので、調理師免許がなくても誰でも得意料理でお店を開くことができます。これまで地元の世話好きのお父さんがモーニングカフェをしたり、小中学生の子どもたちが“いちにち子どもカフェ”を開くなど、小さな挑戦と地域の楽しい交流の場になっています。

3. “しごと”の担い手

責任はとります。思いっきりやりなさい。



社会医療法人正光会 松ヶ丘病院 大上陽子さん

～責任はとります。思いっきりやりなさい。～

私は以前、病棟の看護師長として働いていました。もちろん、患者さんのことを第一に考えて仕事をしていましたが、師長は働くスタッフのことに気を配ることもとても大切です。

私がまだ若手だった頃、当時の師長に「責任は師長の私にとるから、あなたは自分の仕事を思いっきりやりなさい。」と言われたことを今でも覚えています。その時の言葉を胸に、私は師長としてスタッフが思いっきり働ける環境づくりを目指しました。今の若い方にも、将来師長になったときはそのことを少しでも思い出してくれると嬉しいです。

～益田にも良いところはあるんです。～

私はずっと益田で働き、益田で暮らしてきました。都会の暮らしと比較はできませんが、この地はとても暮らしやすい場所だと思います。特に近所との繋がりが強く、私の息子は近所の方々に釣りに連れて貰ったり、自転車の乗り方を教えてくれたり、支え合い、助け合いの輪の中で暮らすことができました。

また、私の一番の楽しみは一年に一回の東京旅行です。今年は息子と一緒にディズニーシーへ行きました。空港が近くにあるのはとても便利に感じています。この旅行のお蔭で日々の仕事を一所懸命頑張れます。

水仙の花さく地域づくり



鎌手地区では、平成元年より地域に自生していた日本水仙を活かしたまちづくりに取り組んでいます。地域の人たちの手により日本水仙の植栽を行い、年々植栽面積を拡張し、10数年の歳月をかけ、海岸に面した丘陵地「唐音水仙公園」において、今では毎年12月から2月にかけて200万球を超える日本水仙が咲き誇り、癒しの空間となっています。また、毎年1月には、水仙の里かまてウォークを実施しており、運営として中学生や高校生も参加し、鎌手地区を盛り上げています。ぜひ、鎌手の水仙公園や日本海の絶景を楽しみにきてみんさい。

益田市の“移住”“定住”支援

ますだ暮らし定着支援事業助成金

安定したますだ暮らしの実現、益田市への定着を図ることを目的として、益田市内の事業所等に就業するUターン者、新規学卒者に対して助成金を交付します。
※申請後5年未満で市外へ転出した場合、当該助成金の返還が生じます。

基本額 3万円

〔加算額〕

- 若者加算：1万円
申請時に39歳以下の方
- 企業就職加算：1万円
Uターン者サポート宣言企業に就業される方

「ますだ暮らし定着支援事業助成金」についてはこちら▶

益田市空き家BANK

益田市は空き家バンク制度を設け空き家の情報を提供しています。

この制度は、自分の持っている空き家を賃貸もしくは売却してもいいというお考えをお持ちの方と、益田市での生活のために住宅を探している方にその意思を登録していただき、空き家の有効活用を図る制度です。



「益田市空き家バンク」についてはこちら▶